

若いけど！

Vol.07 / 2015年4月13日発行

おばちゃん通信



横須賀市のお金は何につかわれる？

平成 27 年度の横須賀市の予算は 1459 億 5 千万円。これに、国が地方の経済活性化への緊急対策として計上した交付金およそ 7 億 6500 万円を加え、運用してゆきます。昨年と比べ、歳出では高齢化の影響で、社会保障は増額しています。歳入では市税が 17 億円、地方交付税が 18 億円減少しました。これは税制改正の影響もあります。横須賀市は安定的な財政運営を行うため、「財政調整基金」という貯金を切り崩している状況です。平成 27 年度はこの貯金を使う額が、平成 20 年以降で最多の額となっています。横須賀市が経済的に厳しい状況の中、限られた予算の使いみちを話し合う議会の役割が、そして議会の構成員を決める私たち市民ひとりひとりの判断と選択が、重要になってきています。

☆注目したい 27 年度予算



横須賀市は子育て環境の充実、生涯現役社会の実現、地域経済の活性化、横須賀製鉄所創設 150 周年記念事業へ重きを置いているようです。なかでも個人的には「英語コミュニケーション環境の充実」に力を注いでいることに注目しています。今まで各小、中、高へのネイティブスピーカー配置が主だった事業だったのに対し、未就学児から大学生、社会人も対象にした「市内在住外国人宅へのホームステイ事業への準備」や、高校生以上が対象の米海軍基地内の教育機関との連携などが始まるようです。日本のこと、地域のことなど自国の文化、歴史、伝統も学びつつ、コミュニケーションツールとして、英語をつかうことができるようになってほしいと思います。単なる学校の授業を充実させるだけではない、「横須賀市ならではの」の取り組みに、今後の展開も期待しています。

☆おばたさおりのやりたいこと。

おばたさおりは今後以下の分野に取り組みたいと考えています。

子どもの育ちを支えます。

教育環境の充実、子どもの人権を守ること、英語を身近にする、学童保育の料金見直し、中学校完全給食の推進、社会的養護下の子どもの支援。

見直そう、地域の力。

地域ビジネスの推進、地域と学校をつなぐ、廃止された施設の活用促進、介護する人を孤立させない。

誰もが、暮らしやすいまちへ。

障がい者の働く場を確保、若者の自立をサポート、介護予防の促進、市議会のありかたの見直し。

☆おばちゃんレポート～児童養護施設って何だろう～

児童養護施設には親の病気、死亡、離婚、養育放棄、虐待など、家族と暮らすことの難しい2歳～18歳までの子どもたちが生活しています。いわゆる「集団生活」を想像する方も多いと思いますが、国の方針として徐々に部屋もユニット化し、小規模型への移行が進んでいます。児童養護施設の予算は国からと地方公共団体からと半分ずつ。横須賀市内に児童養護施設は2つ。市は施設の子どもへの学習支援費を出しています。学習の機会を与え、自立支援を行うことは、施設で育った子がその後生活に困窮するという負の連鎖を断ち切るために必要なことです。また子ども自身がしっかりと自立することは、「納税者」となり、社会に還元されることとなります。

☆「施設で育つ」ということ。



とある児童養護施設で子ども時代を過ごした女性にお話を伺ってきました。乳児院を経て、施設に入った彼女は、家庭で暮らした経験がほとんどありません。

「招待行事や施設でのイベント、部屋の子たちとの交流は楽しかったです。施設では小5から自分で洗濯物を干したりするので、一人暮らしを始めた際、そうした経験は役に立ちました。しかし進学時は奨学金などに頼らなければ生活も難しい。また「普通の家庭」の体験が少なく、冠婚葬祭や、他人の家に行ったときなど、どう振る舞えばいいのか、などの常識が欠けているのでは、と不安になります。施設を出た後は、身近に頼る人もおらず、忙しいとわかっているので、出身の施設職員への連絡もためらってしまいました。また周囲に児童養護施設があまり知られていないこと、そこから生まれる誤解もあります。施設で育ったことを「かわいそう」と思われたくありません。私は家族と暮らしていたら、進学もしなかったかもしれないし…。当時一緒に暮らしていた人たちとは幼馴染のように親しく、今も交流をしています。」

私の質問に丁寧に答えてくれた彼女。紙面の都合上、すべてをお伝えできず残念です。しっかりと生きて、それでいて雰囲気は柔らかく、とても温かみのある彼女は、学校を卒業し、今は一人の社会人として働いています。彼女のように「進学したい」という気持ちを潰すことのないよう、将来の選択肢ができる限り広がるよう、社会的養護の環境を支えると共に、施設を出た後のケアをする場所の必要性を感じます。

私の質問に丁寧に答えてくれた彼女。紙面の都合上、すべてをお伝えできず残念です。しっかりと生きて、それでいて雰囲気は柔らかく、とても温かみのある彼女は、学校を卒業し、今は一人の社会人として働いています。彼女のように「進学したい」という気持ちを潰すことのないよう、将来の選択肢ができる限り広がるよう、社会的養護の環境を支えると共に、施設を出た後のケアをする場所の必要性を感じます。

おばたさおり プロフィール



小幡沙央里。1985年10月3日生まれ。29歳。

1998年 横須賀市立平作小学校卒業

2001年 横須賀市立池上中学校卒業

2004年 横浜市立金沢高校卒業（52期生徒会長）

2009年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）政治学部卒業

2008年～2009年 吉田雄人市議（現市長）インターンシップ

2009年～ 松尾崇鎌倉市長始め、市議・県議の方々の下で地方自治政治の研究。

2011年 NPO法人アンガージュマン・よこすか勤務

2014年 学習塾退社（7月）。児童養護施設ボランティア、こども若者応援団代表、

市内小学校にて教育支援ボランティア。

趣味：歌（声楽、コーラス、ゴスペルなど）、読書

おばたさおりの

ご意見、ご質問、ご相談など、皆様の声をお聞かせください！

サポーターを募集し

移動事務所：080-1161-4031 または info@obatasaori.com

ています！

HP できました！ saori-obata.info